

原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。  
原村で暮らす、おもしろくて素敵なひとを紹介します。



## 「やじペンキッチン」

小池 美紀さん (40)

原村のペンション地区出身。大学進学で東京へ出たが卒業後原村へ戻り農業実践大学校に勤務。その後東京で飲食業等を経験し、実家である「ヤジマペンション」を手伝うため再び原村へ戻る。現在は3人のお子さんを育てながら「やじペンキッチン」という名前でランチも始め活躍されている。

次回「ヤジペンキッチン」は9/6を予定。(2018年7月現在)  
お問い合わせ：おいでなして原宿 tel.0266-79-7228

当たり前前なことに感謝しながら

世代を越えて地域の輪を広げていきたい



大学卒業後は原村へ戻ってこようと最初から決めていたという小池さん。その理由を尋ねると「原村が好きだから！」と笑顔で答えてくれた。原村で生まれ育った小池さんは、この環境が全て当たり前だと思っていたそう。「東京へ出てみて、夜空を見上げても星が見えないし、水道のお水や空気がおいしくなくてとても驚きました。原村にいたころは県外から来た人が水道の水をくださいという意味が分からなかったけど、上京して意味が分かりました。」と話し、生まれ育った環境の有り難さに気が付いたという。

3人のお子さんのお母さんでもある小池さん。どんなに恵まれた環境にいるのかを子どもたちに教えるため、素直に綺麗だと思ったものを「綺麗だね」と声を出して伝えるよう心がけているという。

「この環境が当たり前と思わず感謝の気持ちを持って暮らしてほしい」と語った。原村は子育てには申し分のない環境ですね、話しかけると、「幼稚園のママ友たちはほとんどが移住者で、新しい環境に

入り頼る人が身近にいない人が多いんです。」と教えてくれた。そんな現状を目の当たりにして、困っている人や悩んでいる人の助けになりたいと、子ども連れで参加できるワークショップを企画する等してお母さんたちに憩いの場と新たな人の繋がりを提供している。

「ワークショップをやるにあたって、沢山のママ友に助けられました。」と感謝の気持ちを語る小池さん。その姿に暮らしの豊かさは自然環境だけではなく、人と人との繋がりによって育まれることを改めて教えてくれた。

小池さんは現在週に一度、子どもを連れて『おいでなして原宿』でランチの提供をしている。「子どもがおじいちゃんおばあちゃんと触れ合っている光景がとても嬉しい。色々な人たちが世代を越えて繋がれる貴重な場です。」と話し、人との出会いを温かな心を以て楽しんでいる。

地域の輪を広げ、より良くしていこうと積極的に活動される小池さんの姿からこぼれる笑顔は、眩しく輝いている。